

第3回
Unified Team Challenge
<実施報告書>



2025 年 10 月 15 日



一般社団法人日本ドッジビー協会

開催概要

日時： 2025年10月5日（日曜日） 13:00～15:30

会場： 文化シャッター株式会社 本社2F BXホール
東京都文京区西方1-17-3

主催： 一般社団法人日本ドッジビー協会 <DBJA>

協賛： 文化シャッター株式会社/株式会社ラングスジャパン/株式会社クラブジュニア

参加料： ひとりあたり¥500-（傷害保険加入費・消費税 等一式を含む）

参加賞： 文化シャッターオリジナル・ミニDISC



参加者内訳

・放課後デイサービス施設より、	9名	3チーム	
・就労継続支援B型施設より、	4名	2チーム	（1チームはスタッフ2名参入）
・特別支援学校OB友人同士で、	3名	1チーム	
・DBJA～UFS 参加者リストより	3名	1チーム	合計19名、7チーム

その他

・付き添い職員・保護者	約15名		
・スタッフ 文化シャッター社員～4名	／	DBJA～6名	総合計40名

当日スケジュール

- 12:30～ 入場・受付開始
- 13:00～ 主催者挨拶・撮影関係 / 本イベントプロデューサー 稲垣 敬雄
今日のプログラムの全体説明 / 本イベントディレクター 小島 淳一
- 13:05～ 準備体操 / 渡邊 恒一
- 13:20～ チャレンジプラクティス1) ドッジ ×2回
チャレンジプラクティス2) キャッチ ×2回
チャレンジプラクティス3) スロー ×2回
チャレンジプラクティス4) スロー&キャッチ ×2回
- 14:00～ 休 憩
- 14:10～ チャレンジプラクティス5) スクエアパス
- 14:40～ チャレンジ① スクエアパス ×1回
チャレンジ② ディスゲッター ×2回
- 15:10～ 成績発表・主催者挨拶・写真撮影
- 15:20 イベント終了

【プログラムの内容】

～ チャレンジプラクティス ～

スクエアパスを除き、参加者全員に並んでもらい1人1回ずつ、行っていました。

1) ドッジビー・ドッジ

スタッフが投げるドッジビーを避ける種目です。

「ゆっくり」「普通」「速い」と3段階にすることによって、参加者に応じて難易度を変えることができます。今回は身体を動かすことへの準備として行いました。

2) ドッジビー・キャッチ

スタッフが投げるドッジビーをキャッチする種目です。「ゆっくり」「普通」さらに「速い」と3段階にすることによって、参加者に応じて難易度を変えることができ、ドッジビーは柔らかいため、恐怖心を取り除く効果も期待できます。

最後は「ゆっくり」「普通」「速い」さらに「超速い!」の4段階を参加者に選択をしてもらいました。

3)ドッジビー・スロー

ディスクゲッターフープヘドッジビーを「3m」「5m」「7m」の各スローイングポイントより投げ入れてもらいます。徐々にスローイングポイントを長くすることにより、正確なスローの習得とスローの自信を得てもらう事を狙いとしてしました。

4)ドッジビー・スロー&キャッチ

2)と 3)を組み合わせ、参加者が他の参加者に対してスローを行い、他の参加者がキャッチを行う、次のプラクティスに繋がり、相手(仲間)を意識する動きを行いました。

5)ドッジビー・スクエアパス

3人のチームメンバーに1名スタッフが加わっての4人が5mの四角形に陣取り、60秒の間にドッジビーを落とさずにできるだけ多くパス回しをする種目です。
捕る、投げる動作を早く、そして仲間が捕れるスローをすることが大切です。

～ ドッジビーチャレンジ ～

① ドッジビー・スクエアパス

プラクティス5)のタイムを 90 秒にして、行いました。

② ドッジビー・ディスクゲッター

縦横3枚ずつのパネルに向かって強く正確にドッジビーを投げて、パネルを抜き 落とすストラックアウトのような種目です。目標物があることによってディスク を投げる際の正確性を獲得することができます。また、人ではなくパネルに向けて投げるため、初めての人でも思いっきりよく投げるすることができます。

【講 評】

文化シャッター株式会社 本社2FのBXホールでUnified Team Challenge(以下UTC)を19名の参加者、その他関係者を含め、総勢40名で開催しました。



今回おこなったUTC/エファイト チームチャレンジは障がいのある方に挑戦していただくにあたり、ゲームをおこなわずに、ゲームの基本要素となる「投げる」「捕る」「避ける」動作をあえてバラしてゲーム化しました。そしてそれを3人が1チームとなってゲームの中で段階的に体験する形式のイベントに変化させました。

今回、既に3回目となりますが過去、実績をお知らせしますと1回目の開催は6月29日に、スタッフも本当に長いこと離れていたため、リハビリが主の目的でオープンな募集告知をせず放課後デイサービス施設にご協力をいただき3チーム、9名に集まっていたきました。2回目は8月24日で以前、DBJAが実施していたUFSの参加希望者リストで募集告知をおこないましたところ、5チーム、15名の参加者にお集りいただきました。

複数の種目を順番にチームで体験することによってコミュニケーションを図り、楽しみながらもフライングディスクの基礎になる動きを自然な形で練習することを狙ったのプログラムですがこれが正しいのか、意図したことが実現しているかの検証を趣旨として小規模に3回開催しました。



本イベントシリーズのディレクターを務めた小島より総括を述べます。



3回目となる UTC は、前回までの実施で、改めて体感して頂く必要があると感じた「投げる」「捕る」を、「チャレンジプラクティス（練習）」として行いました。堅苦しい練習とならないよう前回までのチャレンジ種目を組み入れ、「捕る」「投げる」の各動作をバラして1人1人が行う第1段階。

「投げて捕る」(キャッチ&スロー)を2名1組となり行う第2段階。最終段階は4人1組となりチームプレーを体感する「スクエアパス」を行いました。そして「ドッジビーチャレンジ」2種目は、3人が1チームとなって練習での成果をゲームの中で発揮していただく流れとしました。

3回連続で参加したチームも複数あり、今回もみなさんテンション高く、スタッフもみなさんの姿勢に感化され、今回も終始会場全体が和やかな空気感で進行する事ができました。みなさんの楽しむ中にも真剣に取り組む姿勢がとても印象的でした。また今回親子で参加して頂いたチームが2組あり Unified Flyingdisc Session の目指す、「障がいのある人のみならず、より多くの人にドッジビーに興味を持っていただき、日常生活の中で楽しむことのできる遊び方や種目を創造し、提案することを目的とした活動です」の理想の形を見せていただいた思いです。ご家族でご参加して頂いたことをスタッフ一同感謝しております。



今後 UFS チームは、3回の経験を基に、この UTC を継続していくこと。UTC の種目を増やし、年齢・性別・障がい特性にかかわらず、できるだけ多くの障がいをお持ちの方とご家族・関係者の方々に参加・挑戦していく場を増やしていきたいと考えています。そしてその先に協会公認種目である「デ

ィスクドッジ」を取り入れ、UTC からディスクドッジチームを作り(チーム作りをお手伝いし)、協会公認大会への参加を大きな目標として目指していきたいと考えています。

快適な会場を協賛提供いただきました文化シャッター様・またイベント協賛をいただいたラングスジャパン様・クラブジュニア様には心より御礼申し上げます。